

高齢者における利尿薬併用がアピキサバンの出血イベントに与える影響

兵庫県立丹波医療センター 薬剤部

○大垣 望、玉置 尚、松本 敏明、柴田 直子、瀬川 和子、横田 聖子

【目的】非弁膜性心房細動(NVAF)の治療に用いられるアピキサバン(APX)は、年齢(80歳以上)が減量基準の一つに設定されている。当院のAPX服用入院患者のうち1/3が80歳以上であり、潜在的な出血リスクを孕んでいると言える。またNVAFはしばしば心不全を合併するため、心不全の治療薬の1つである利尿薬が高頻度に併用されている。今回APXと利尿薬(ループ利尿薬、サイアザイド利尿薬、K保持性利尿薬、バソプレシンV2受容体拮抗薬)の併用による、出血イベント発生率の変化について比較検討した。

【方法】2020年4月～2021年3月の間に、NVAFに対してAPXを1回2.5mg1日2回で服用した80歳以上の入院患者を対象に、APX単独群とAPX+利尿薬群に分類し、各群における入院中に出血イベントが発生した患者または、出血イベントを入院契機とした患者の割合を後方視的に調査した。APXの禁忌該当患者および、HAS-BLEDスコア1点の出血低リスク患者は除外した。また、添付文書の相互作用の項目に記載される薬剤(抗血小板薬やNSAIDsなど)を併用している患者は除外した。

【結果】NVAFに対してAPXを服用した患者は73名で、対象患者は20名であった。APX単独群(7名)およびAPX+利尿薬群(13名)における出血イベント発生率はそれぞれ14.3%、11.1%であり、有意な差は見られなかった。

【考察】今回の調査では、利尿薬の併用とAPX服用中の出血イベント発生率の間に関係を見出せなかった。症例数が少ないことも要因として考えられるため、今後は入院患者だけでなく、外来患者を含めて検討していきたい。

【結論】今回の調査では、利尿薬併用とAPXの出血イベント発生率上昇には関連はなかった。

発表形式：ポスター発表

演題分類：08 有害事象・副作用